

学 長 定 例 記 者 会 見 要 項

日 時：平成27年11月17日(火) 11:00～11:50

場 所：事務局第二会議室(小白川キャンパス事務局棟4階)

発表事項

1. 「国立大学法人山形大学の平成26年度に係る業務の実績に関する評価結果」について
2. 海外2大学と「地域価値創成」共同研究開始
3. 山形大学の教育・研究活動紹介 ～腸管発酵と生理機能～
4. 山形大学の教育・研究活動紹介 ～地方都市を生きる～
5. 地域で活躍する学生サークル紹介 ～学生広報スタッフ YUM !～

お知らせ

1. 本当に男性は女性よりも衝動的か？～脳機能から見る男女の違い～
2. 本学学生が南極観測隊に参加します
3. 多文化交流コンサート「山形から世界へ」を開催します
4. 山形大学校友会支援事業「山形大学卒業生講演会」を開催します
5. 山形大学吹奏楽団が全国大会で銀賞を受賞しました

(参 考)

○ 次回の学長定例記者会見(予定)

日 時：平成27年12月1日(火)11:00～11:45

場 所：事務局第二会議室(小白川キャンパス事務局棟4階)

学長定例記者会見（11月17日）発表者

1. 「国立大学法人山形大学の平成26年度に係る業務の実績に関する評価結果」

について

こやま きよひと
小山 清人 学長

2. 海外2大学と「地域価値創成」共同研究開始

学術研究院 ひいらぎ しの
柎 紫乃 准教授
Naoko Komori Sheffield University Management School
Tim Vorley Sheffield University Management School

3. 山形大学の教育・研究活動紹介 ～腸管発酵と生理機能～

学術研究院 こざかい たかはる
小酒井 貴晴 准教授

4. 山形大学の教育・研究活動紹介 ～地方都市を生きる～

学術研究院 さだかね ひでゆき
貞包 英之 准教授

5. 地域で活躍する学生サークル紹介 ～学生広報スタッフYUM!～

人文学部3年 くりはら みき
栗原 美季 さん 代表
同3年 よねやま なつみ
米山 夏美 さん

平成27年11月17日
山形大学

「国立大学法人山形大学の平成26年度に係る 業務の実績に関する評価結果」について

11月6日に国立大学法人評価委員会が本法人の平成26年度に係る業務の実績に関する評価結果を公表しました。

山形大学の平成26年度に係る業務の実績に関する評価結果については、別紙のとおりです。

また、本学の評価は、評価項目である「業務運営の改善及び効率化」、「財務内容の改善」、「自己点検・評価及び情報提供」、「その他業務運営」の4項目全てにおいて、「評定4の順調に進んでいる」と評価されました。

なお、全国の大学における本学の位置付けと本学のこれまでの評価結果の推移をまとめると以下のとおりとなります。

全国国立大学法人の評価結果の分布

○平成26年度に係る業務の実績に関する評価

	業務運営の改善 及び効率化	財務内容の改善	自己点検・評価 及び情報提供	その他業務運営 (施設整備の整備・活用 等、安全管理、法令遵守)	産業競争力強化法の 規定による出資等
特筆すべき進捗状況にある (評定5)	4法人 (5%)	0法人 (0%)	1法人 (1%)	0法人 (0%)	0法人 (0%)
順調に進んでいる (評定4)	81法人 (90%)	89法人 (99%)	89法人 (99%)	67法人 (74%)	3法人 (75%)
おおむね順調に進んでいる (評定3)	3法人 (3%)	0法人 (0%)	0法人 (0%)	13法人 (15%)	0法人 (0%)
やや遅れている (評定2)	1法人 (1%)	0法人 (0%)	0法人 (0%)	9法人 (10%)	1法人 (25%)
重大な改善事項がある (評定1)	1法人 (1%)	1法人 (1%)	0法人 (0%)	1法人 (1%)	0法人 (0%)

は、山形大学の評価結果

※産業競争力強化法の規定による出資については、東北大学、東京大学、京都大学、大阪大学の4大学のみが中期計画を設定している。

山形大学の評価結果推移一覧表

	第1期中期目標期間								第2期中期目標期間				
	H16	H17	H18	H19	H16-19 【暫定評価】	H20	H21	第1期 【最終評価】	H22	H23	H24	H25	H26
業務運営の改善 及び効率化	3	4	4	3	4	3	5	4	4	4	4	4	4
財務内容の改善	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
自己点検・評価及び当該 状況に係る情報の提供	3	4	5	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
その他業務運営 (施設整備・安全管理等)	4	4	4	4	4	4	4	3	4	4	4	4	4

(評定)

5	中期計画の達成に向けて <u>特筆すべき進捗状況にある</u> (国立大学法人評価委員会が特に認める場合)
4	中期計画の達成に向けて <u>順調に進んでいる</u> (すべてⅣまたはⅢ)
3	中期計画の達成に向けて <u>おおむね順調に進んでいる</u> (ⅣまたはⅢの割合が9割以上)
2	中期計画の達成のためには <u>やや遅れている</u> (ⅣまたはⅢの割合が9割未満)
1	中期計画の達成のためには <u>重大な改善事項がある</u> (国立大学法人評価委員会が特に認める場合)

注)

国立大学法人及び大学共同利用機関法人の第2期中期目標期間における各年度終了時の評価に係る実施要領（平成22年6月28日国立大学法人評価委員会決定）から

Ⅳ：中期計画を上回って実施している

Ⅲ：中期計画を十分に実施している

Ⅱ：中期計画を十分には実施していない

Ⅰ：中期計画を実施していない

国立大学法人・大学共同利用機関法人の改革推進状況
【平成26年度】

文部科学省が取りまとめた「国立大学法人・大学共同利用機関法人の改革推進状況」の中で、特筆される事項、注目される事項等として、本学については、評価結果にも記載されている、以下の2項目が取り上げられました。

1. 学長・機構長のリーダーシップの発揮による全学的視点からの改革実践

○「学内マネジメントに関する情報共有を推進するためのIR機能の強化」

学内マネジメント等に関する情報共有を推進するため、「総合的學生情報データ分析システム」に新たに分析ソフトを導入しユーザビリティの向上を図るとともに、「ファクトブック（教職員の情報共有を目的として各種統計資料を掲載している学内専用システム）」の掲載部署や掲載方法、掲載内容について検証を行い、ユーザーニーズやコスト軽減も勘案した新システムの導入を決定するなど、IR（インスティテューショナル・リサーチ）機能の強化を図っている。

2. 附属病院の機能の充実・強化 「運営面」

○「入院患者に対する総合的かつ一元的なサービスの提供」

入院時の患者に対して総合的かつ一元的なサービスを提供するため、国立大学として初となる「医療コンシェルジュステーション」を開設しており、各病棟スタッフとの連携を図りながら、入院時の生活案内や手続き、医療保険制度の説明、内服薬の確認等を実施している。

（お問合せ先）

山形大学企画部企画課

電話 023-628-4192

Mail: kikadai@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

国立大学法人山形大学の平成26年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

山形大学は、「自然と人間の共生」をテーマとして、学生教育を中心とする大学創り、豊かな人間性と高い専門性の育成、「知」の創造、地域及び国際社会との連携並びに不断の自己改革の基本理念に沿って、教育、研究及び地域貢献に取り組み、キラリと光る存在感のある大学を目指している。第2期中期目標期間においては、学士課程教育を通じ、自律した一人の人間として力強く生き、他者を理解し、ともに社会を構成していく力を養うこと等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、自然や地域社会を活用したフィールド活動・体験型授業の実施や、学部1年次生の段階から将来のキャリアパスを見据えた学習計画を立てることを目的として「低学年インターンシップ」を新たに開講するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

(機能強化に向けた取組状況)

大学としての強み・特色を最大限に生かし、自ら改善・発展する仕組みを構築するため、学長を本部長とする「大学改革戦略本部」や「機能強化等に関するタスクフォース会議」を設置し、「山形大学の将来構想」の改訂や、全学的な教育研究組織の在り方について検討を行うとともに、年俸制及びクロス・アポイントメント制度の規程を制定したほか、年俸制適用職員の業績給に係る業績評価等の取扱いを定めるなど、人事・給与システムの改革を進めている。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成26年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 高度な教育・研究・診療及び社会貢献を推進するための教員組織の整備

教育組織と教員組織を分離し、柔軟な教員集団を形成することにより、より高度な教育・研究・診療及び社会貢献を推進するため、教員を全学的に一元管理する「学術研究院」を平成27年4月に設置することを決定しており、規程を制定する等、設置に向けた準備を進めている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

- 〔①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
③資産の運用管理の改善〕

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 外部資金獲得のための積極的支援による獲得件数の増加

外部資金の獲得について、「大型の競争的外部資金獲得のための支援制度」や「科学研究費補助金研究計画書の作成に関するアドバイザー制度」等により積極的に支援を行った結果、科学研究費助成事業の採択件数が増加するとともに、強みである有機材料分野における企業との共同研究の増加等により、外部資金比率は法人化以降、最も高い 6.6 % (対前年度比 1.1 ポイント増) となっている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 7 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

- 〔①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進〕

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 学内マネジメントに関する情報共有を推進するための IR 機能の強化

学内マネジメント等に関する情報共有を推進するため、「総合的学内情報データ分析システム」に新たに分析ソフトを導入しユーザビリティの向上を図るとともに、「ファクトブック (教職員の情報共有を目的として各種統計資料を掲載している学内専用システム)」の掲載部署や掲載方法、掲載内容について検証を行い、ユーザーニーズやコスト軽減も勘案した新システムの導入を決定するなど、IR (Institutional Research) 機能の強化を図っている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 4 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守)

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

○ 入学者選抜における出題ミス

平成 27 年度の医学部看護学科推薦入試において、小論文の設問に出題ミスがあり、追加合格を行っていることから、再発防止等に向けた取組が望まれる。

○ 国立大学病院管理会計システムの利用における課題

会計検査院から指摘を受けた、国立大学病院管理会計システム (HOMAS) の継続的な利用に至らなかったなどの問題点について十分検討し、導入が予定されている次期システムを効果的かつ継続的に利用するために、次期システムの利用方針等を明確にするなどして、その利用に必要な体制の整備を図ることが望まれる。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 6 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 自然や地域社会を活用したフィールド活動・体験型授業の実施

教養科目に当たる「山形に学ぶ」を構成する自然や地域社会を活用したフィールド活動・体験型授業を、前後期合わせて 33 科目開講 (前年度 16 科目) し、705 名が受講しており、授業改善アンケートでは 33 科目全てにおいて 5 点満点中 4.3 以上の高い満足度を得ている。

○ 科目ナンバリングの導入に向けた取組

学生のカリキュラムへの理解促進や授業科目選択の一助とするため、平成 27 年度から学士課程の全授業科目を対象に科目ナンバリングの導入を決定しており、導入に当たり全学の教育・学生委員会にワーキンググループを設置し附番方法を検討した上で、各学部等において、カリキュラムマップやカリキュラムツリーと併せて授業科目の位置付けを再確認・再点検した上で附番作業を実施し、シラバスや学生便覧等へ記載を行っている。

○ 学生のキャリアパス形成に向けた早期インターンシップの充実

学部 1 年次生の段階から将来のキャリアパスを見据え 4 年間の学習計画を立てることを目的として、基盤教育の教養科目において山形県中小企業家同友会との連携による「低学年インターンシップ」を新たに開講しており、短期及び中長期のインターンシップと併せて合計 162 名の学生が参加するなど、キャリア教育の充実を図っている。

○ 印刷型有機薄膜トランジスタ研究における傑出した成果の創出

有機エレクトロニクス研究センターにおいては、文部科学省「センター・オブ・イノベーション（COI）プログラム」の COI-T の支援により、異なる分野の融合が進展し、実用化に近づく研究成果が得られたことが評価され、COI の拠点に昇格するとともに、印刷型有機薄膜トランジスタの研究において、世界最大面積（約 20 cm× 20 cm）で、世界最薄（約 1 μメートル）フィルムの子回路の作製に世界で初めて成功している。

○ 総合スピ科学分野における世界初の実験の開始

総合スピ科学創成プロジェクトにおいては、欧州原子核研究機構（CERN）において核子スピ研究の実績を持つ任期付教員 2 名を新たに配置し、大型偏極陽子ターゲットを用いた世界初の実験を平成 26 年 12 月から開始している。

附属病院関係

（教育・研究面）

○ トランスレーショナル・リサーチやがん研究等の推進

メディカルサイエンス推進研究所において、基礎研究からのシーズとその臨床応用のためのトランスレーショナル・リサーチを推進するため、「医学部研究推進カンファレンス」を開催しており、延べ 200 名を越える参加者を得るとともに、抗がん剤の創薬研究やトランスレーショナル・リサーチ及び山形県コホート研究を推進するため、平成 27 年 3 月に「がん研究センター」を設立している。

（診療面）

○ 周産期医療の充実に向けた取組

山形県においては、医学部附属病院を含む三次周産期医療機関（4 病院）と置賜地域の二次周産期医療機関及びかかりつけ医療機関との間で周産期医療情報ネットワークを整備し運用を行っており、医学部附属病院は、当該ネットワークにおける地域周産期母子医療センターの 1 つとして、置賜地域の二次周産期医療機関からの母体・胎児及び新生児搬送の受入れを順調に実施している。

（運営面）

○ 入院患者に対する総合的かつ一元的なサービスの提供

入院時の患者に対して総合的かつ一元的なサービスを提供するため、国立大学として初となる「医療コンシェルジュステーション」を開設しており、各病棟スタッフとの連携を図りながら、入院時の生活案内や手続き、医療保険制度の説明、内服薬の確認等を実施している。

平成27年11月17日
山形大学

平成27年度採択YU-COE (C) 地域価値創成UE拠点海外共同研究者来日 海外2大学と「地域価値創成」共同研究開始：第一弾は来日・山形県調査 シェフィールド大学（英）・成功大学（台湾）視察の受入れ

Sheffield University, National Cheng Kung University, and Yamagata University

平成27年度YU-COE (C) 採択「地域価値創成に貢献するUniversity Entrepreneurship 研究拠点」の活動として、海外共同研究先である2大学から、山形大学の産金官学連携活動と県内企業視察のため、研究者が山形を訪問します。相互フィールド調査の第一弾で、来年には山形大学チームが海外調査予定です。

1. 「地域価値創成に貢献するUniversity Entrepreneurship 研究拠点」の目的

地方創生の推進のため、平成26年9月に政府が設置した「まち・ひと・しごと創生本部」は、人口減少克服と地方創生、活力ある日本社会の維持を目的としています。一方で、山形大学は基本理念のひとつに「地域創生及び国際社会との連携」を掲げ、「地域に根ざして、世界をリードする」大学を目指しています。

今年度、地域に根差す優れた研究拠点形成事業YU-COE (C) の一環として発足した本研究拠点は、地方創生に関わって、大学という知の拠点が果たす機能を、社会科学と工学の学際的連携により研究、深耕、実践をしていきます。University Entrepreneurshipにはスタートアップ（起業）に限らず既存企業の維持発展に寄与する効果的かつ先進的取組が包括されています。さらに、海外先進拠点と共同して、山形県内企業、英国地方企業、台湾地方企業各々の強み弱みの調査分析を通じて、相補的な協力関係と価値創成モデルを構築し、その成果をグローバルに発信します。

2. 海外共同研究先と、今回の来日視察メンバー

イングランド中部の工業都市シェフィールド市に位置する、シェフィールド大学The University of Sheffieldは、ノーベル賞受賞者をはじめ、国際社会に貢献する人材を輩出するイギリスでも屈指の総合大学であり、ヨーロッパにおける日本研究のパイオニアとしても知られています。今回来日する研究者は、会計および地域政策を含むアントレプレナーシップ研究の専門家の2名です。また、台湾南部にある成功大学は、台南市に本部をおく国立大学であり、国際化を目標とした重点大学でもあります。今回は、生産管理を専門に、地域企業と大学教育の実践協力を進める気鋭の研究者1名が本視察に参加します。

本拠点は、日本のものづくり経営研究の第一人者である藤本隆宏教授がセンター長をつとめる東京大学ものづくり経営研究センターとも研究連携しており、今回のメンバーは、山形県内での視察後、同センターでも学術交流を行う予定です。

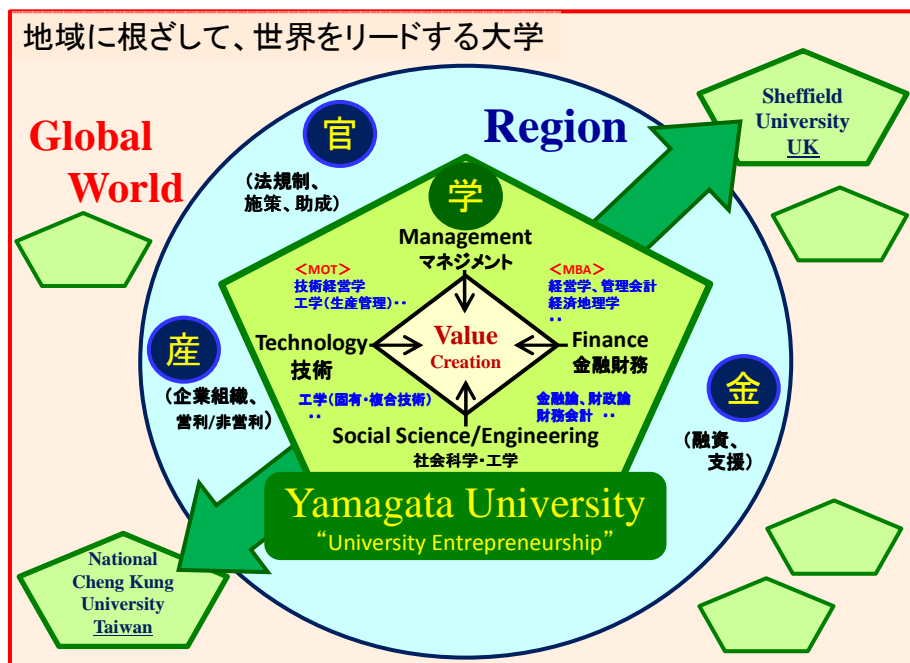
3. 主要訪問先（敬称略）

11月17日（火）から19日（木）にかけて、山形県南部（米沢・南陽）から北部（天童・新庄）の大学関連施設および県内企業や、山形県や米沢市などの自治体と連携した地域人材育成事業を視察します。山形大学「スマート未来ハウス」や同「国際事業化研究センター」、米沢産業育成運営委員会主催の講座、米沢ビジネスネットワークオフィス、山形航空電子(株)で開催される「もがみ未来経営塾2dn stage」の他、玉澤精機(株)、(株)ナカノアパレル、(株)天童木工、(株)山形メタル等を訪問予定です。

<当該研究拠点が目指す「地域実践連携・海外研究連携」概念図>

山形大学のこれまでの地域実践を踏まえ、人文学部と工学部を横断する学問領域の拡大、地域の自治体、金融機関、その他関連組織等との連携による地域産業支援による地域価値創成実現を目指すとともに、それらを国内外に発信し、海外共同研究先との密な情報共有・実践知の交換・理論構築を図っていきます。

今回の来日調査受入はその第一弾であり、この機会に県内各企業、各種関連組織とその連携についても、広く内外に紹介できることを願っております。



(本調査日程等に関するお問合せ先)
 学術研究院（工学担当）
 柘紫乃研究室 研究支援員：安部憲人
 0238-26-3758
 s_hiiragi@yz.yamagata-u.ac.jp

平成27年11月17日
山形大学

山形大学の教育・研究活動紹介 ～腸管発酵と生理機能～

「地域創生」「次世代形成」「多文化共生」を使命とする山形大学の“旬な教育研究”を紹介します。今回は学術研究院（地域教育文化学部・理工学研究科担当）のこざかいたかはる小酒井貴晴准教授の「腸管発酵と生理機能」です。

1 JST「マッチングプランナープログラム」に採択

国立研究開発法人 科学技術振興機構（JST）のマッチングプランナープログラム（※）平成27年度第1回探索試験採択課題に小酒井准教授の「嫌気性微生物の活性化因子を活用した屎尿バイオマスの研究」がグリーンイノベーション部門で採択されました（本学からは他にライフイノベーション部門で4課題が採択）。

2 「腸管発酵と生理機能」研究について

小酒井准教授は、「腸管発酵と生理機能」の探究の中で、腸管内での嫌気（酸素が乏しい）条件での発酵促進因子に注目して、イソプレノイドやポリフェノールなどの食用植物成分が及ぼす影響を研究しています。その成果の中で、ある種のポリフェノールが腸内発酵のみならず、体内の老化現象（タンパク質の糖化反応）を抑制することを明らかにし、食品メーカーとの共同研究が進められています。また、上記のJST研究助成に採択されたように、基礎研究の成果からヘルス分野以外のバイオマス技術へ応用させる研究も期待されており、民間企業との共同開発が期待されています。

3 「地域創生」への貢献

腸管発酵が生理機能に及ぼす生物学的研究には依然不明な点が多く、「どのように認識され、どのように吸収されるか」などのメカニズムはわかっておりません。「生物における腸管発酵」を認識する基礎的メカニズムが解明されれば、健康的な食生活の維持のみならず、医学の臨床分野や農学の家畜生産などへの応用が期待できます。

豊かな食文化や食材食品を有する山形だからこそ挑戦できる基礎研究を基に、民間企業や地域行政とスクラムを組んで、地域はもちろん、世界へ発信・貢献する技術革新を、目指して行きたいと考えています。

※JST「マッチングプランナープログラム」とは

地域における企業の開発ニーズを戦略的に把握し、全国の大学等の研究成果、知的財産の中からその解決に資するものを結びつける専門人材「マッチングプランナー」を配置して企業の開発ニーズを解決し、高付加価値・競争力のある地域科学技術イノベーションを創出することを目的としています。

JST (<http://www.jst.go.jp/mp/>)

(お問合せ先)

学術研究院(地域教育文化学部・理工学研究科担当)
准教授 小酒井貴晴

電話：023-628-4354

Mail：takaharukozakai@e.yamagata-u.ac.jp

平成27年11月17日
山形大学

山形大学の教育・研究活動紹介 ～地方都市を生きる～

「地域創生」「次世代形成」「多文化共生」を使命とする山形大学の“旬な教育研究”を紹介します。今回は学術研究院（基盤教育担当）のさだかねひでゆき貞包英之准教授の「地方都市を生きる」です。

1. 教育研究の概要

地方都市の暮らしはいかなるものか。近年、地方がどうあるべきかに関する議論はさかんですが、地方の暮らしがいかなる魅力や問題を抱えているかに対する「厚い記述」はかならずしもおこなわれていません。

それを補うために、地方都市の歴史的あり方や現在を考える基盤教育科目「地方都市を生きる（人間を考える）」や「都市と共生：山形を中心として（共生を考える）」などの講義や学生参加型授業をおこない、また文部科学省「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」の支援を受け、地域住民を主体とした公開研究会等を開催してきました。

2. 研究の成果

このたび、本研究の成果として『地方都市を考える——消費社会の先端から』（花伝社、2015年）を出版しました。

本書は、山形市を例として、現在の地方都市の抱える住居や交通、政治過程や商業活動、労働などの問題を論じたものです。日本社会が「消費社会化」していくなかで、わたしたちの生活はどう変わったのか、そしてまたどう変わっていくべきなのかを考えることを主題にしています。

（お問合せ先）

学術研究院（基盤教育担当）准教授

さだかねひでゆき
貞包英之

電話：023-628-4180

Mail：hidesadakane@kdw.kj.yamagata-u.ac.jp

平成27年11月17日

山形大学

地域で活躍する学生サークル紹介 ～学生広報スタッフYUM!～

「地域創生」をビジョンの1つとする山形大学では、学生サークルが地域で様々な活躍をしています。今回は、「学生広報スタッフYUM!」をご紹介します。

【学生広報スタッフYUM!とは】

山形大学では、学生支援業務等の充実と学生の就業意識の向上を図るため、学生を修学に支障のない範囲で雇用するアドミニストレイティブ・アシスタント（AA）制度を実施しています（平成21年度より）。YUM!（Yamagata University Magazine）は、AA制度により雇用された学生による大学学生広報活動です。現在各キャンパスで18名のスタッフが様々な活動を行っています。

学生の目線から、山形大学の「今」と魅力を伝えるために、HPにて山形大学に関する記事を書いています。山形大学の学生のリアルなキャンパスライフ情報から、山形大学を目指す受験生に向けたものまで、幅広いジャンルの記事を書いています。また、大学広報誌「みどり樹」の記事も一部担当させていただいています。現在メンバー募集中です！

私たちの今後の目標としては、「知名度を上げること」と「メンバーの増員」が挙げられます。そのためにSNS・掲示・チラシを有効活用した広報活動を展開していく考えです。また、新入生募集の呼びかけも強化していきます。

山形大学には面白いイベントを沢山開催していることかと思えます。しかし、学生の間によく知られていないのが現状です。そこで、私たちが宣伝しようと考えています。取材等あれば、いつでもご連絡下さい。お待ちしております。ぜひYUM!のHPを見てください！

HP：<http://www.yamagata-university.jp/>

メールアドレス：yum_yamagatamagazine@yahoo.co.jp



講演会を取材する学生広報スタッフ

（お問い合わせ先）

総務部総務課広報室

電話：023-628-4008

Mail：koho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

平成27年11月17日
山形大学

1. 本当に男性は女性よりも衝動的か？～脳機能から見る男女の違い～

学術研究院（地域教育文化学部担当）の^{おおむらかずみ}大村一史准教授の研究。

脳波計測を利用した心理実験から、衝動性をコントロールする抑制機能は、注意制御の段階において、脳機能レベルで男女の差が生じることがわかりました。さらに男性においてのみ、その差が個人の注意制御能力の高低と関係していることを明らかにし、性差に特異的な抑制機能の脳内メカニズムの存在を発見しました。

詳細は別紙通知をご覧ください。

2. 本学学生が南極観測隊に参加します

本学大学院理工学研究科（理学系）博士前期課程1年の^{あらいみほ}荒井美穂さんを、第57次日本南極地域観測隊同行者として、本年12月2日から平成28年3月27日まで南極大陸に派遣します。

詳細は別紙通知をご覧ください。

3. 多文化交流コンサート「山形から世界へ」を開催します

◇日時：2015年12月12日（土）13:30-

◇場所：山形市遊学館

◇入場料：前売500円・当日800円（高校生以下無料）

◇主催：国際ロータリー第2800地区山形米山学友会

◇共催：国際ロータリー第2800地区、山形大学小白川キャンパス国際センター、国際交流サークルIF

詳細は別紙通知をご覧ください。

4. 山形大学校友会支援事業「山形大学卒業生講演会」

シンポジウム「活躍する山形大学卒業生～私にとっての山形大学とは?～」を開催します

◇日時：2015年12月5日（土）10:30-12:30

◇場所：山形大学基盤教育1号館111教室

◇参加費：無料

◇お申込期限：11月30日（月）

◇募集人数：50名

詳細は別紙通知をご覧ください。

5. 山形大学吹奏楽団が全国大会で銀賞を受賞しました

10月24日に札幌市内で行われた第63回全日本吹奏楽コンクールに9年ぶりに出場した山形大学吹奏楽団が、通算2度目の銀賞を受賞しました。

詳細は別紙通知をご覧ください。

以上

平成27年11月17日
山形大学

本当に男性は女性よりも衝動的か？

～脳機能から見る男女の違い～

脳波計測を利用した心理実験から、衝動性をコントロールする抑制機能は、注意制御の段階において、脳機能レベルで男女の差が生じることがわかりました。さらに男性においてのみ、その差が個人の注意制御能力の高低と関係していることを明らかにし、性差に特異的な抑制機能の脳内メカニズムの存在を発見しました。

従来から男性は女性よりも衝動性が高く、拙速に行動しやすく、時に攻撃的だと考えられてきました。果たしてこれは本当でしょうか？確かに、衝動性を上手にコントロールすることは、社会適応的に生きていく上で大切な能力と言えます。男性と女性にこのような行動上の違いがあるとすれば、その違いはどこから生まれるのでしょうか？

今回私たちの研究室は、ある認知活動に伴う脳活動を反映する脳波の一つ「事象関連電位」から、衝動性をコントロールする能力（抑制機能）の性差を検討しました。ある刺激が出現した場合に反応抑制が要求されるGo/Nogo課題遂行中の事象関連電位を多チャンネル高密度脳波計で測定しました。特に、抑制機能を反映するとされる事象関連電位成分（N2、P3）に着目し、その振幅が衝動性傾向や性差にどのように影響されるのかを調べました。その結果、課題成績に差は無くとも、Nogo条件時のN2振幅は、女性よりも男性の方が大きいことがわかりました。続くP3振幅には差がありませんでした。さらに、男性では、衝動性傾向を測定する質問紙BIS-11の注意制御に関する下位尺度得点が高いほど、かつ認知の制御能力を測定する質問紙Effortful Controlの注意制御に関する下位尺度得点が高いほど、N2振幅が小さいことが確認されました。つまり、男性においてのみ、衝動性を注意機能レベルで制御する能力が高いほど、N2振幅が大きい（抑制機能が効率よく機能している）こととなります。このように、抑制機能における注意の実行制御には脳機能レベルで性差が存在し、性別によりそのバラツキの程度が異なることを発見しました。

この研究から、反応抑制を求められる事象に対して、男女同等のパフォーマンスを発揮するとしても、女性は事象を評価する処理の初期段階で注意機能が安定的に働くのに対して、男性は注意制御能力の個人差によりその機能の変動が大きいことが示唆されます。つまり、女性は誰しも比較的安定して事象を捉えられるのに対し、男性は詰まるところその人によるところが大きいことが推測されます。従来から男性が女性よりも衝動的と考えられてきた背景には、このような性差に特異的な抑制機能の脳内メカニズムが深く関与している可能性が考えられます。本研究の成果は、疫学的に男性の罹患率が高いことが知られている、抑制機能の不全を示す注意欠陥多動性障害(ADHD)の障害特性を説明する材料につながることも期待されます。

本研究は文部科学省科学研究費補助金の助成を受けて行われました。
 本研究成果は、認知神経科学誌のBrain and Cognition誌に掲載されます（11月3日オンライン版掲載）



【論文情報】

Sex differences in neurophysiological responses are modulated by attentional aspects of impulse control.

Kazufumi Omura, Kenji Kusumoto.

Brain and Cognition, 100, 49-59. 2015年11月3日オンライン掲載

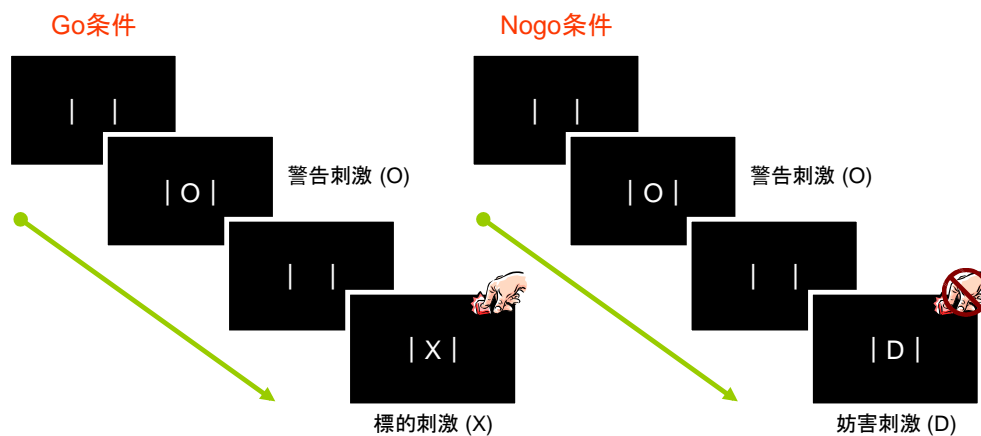


図1. 反応抑制を求めるGo/NoGo課題：警告刺激(O)の後に、標的刺激(X)が呈示された場合のみにボタン押し反応(Go条件)を行い、それ以外の場合はボタンを押さない(NoGo条件)

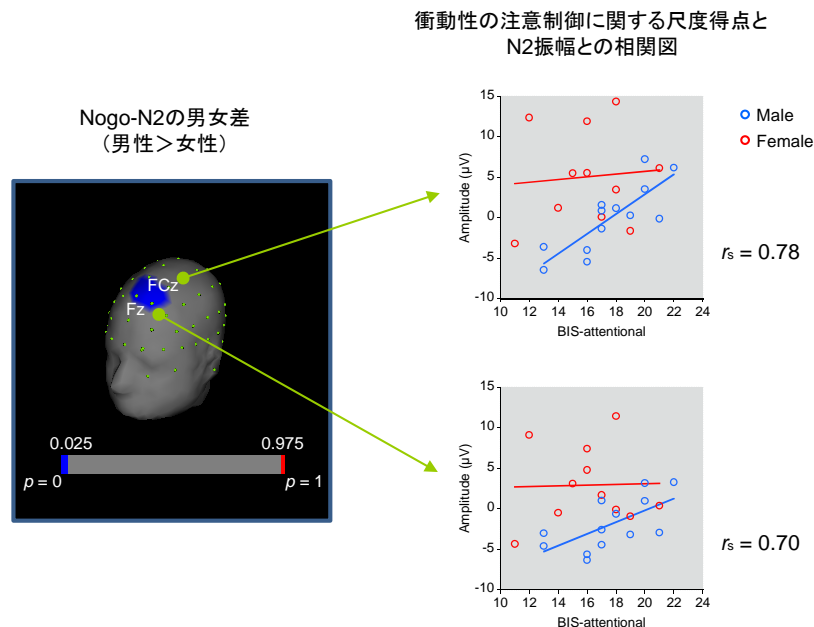


図2. Nogo条件時にN2振幅の男女差が認められた部位と衝動性の注意制御尺度得点との相関関係：男性の方がマイナス方向にN2振幅の絶対値が大きく（男性>女性）、注意制御の能力が高いほど、そのN2振幅が大きい

（お問合せ先）

学術研究院（地域教育文化学部担当）
 大村一史 電話 023-628-4439

平成27年11月17日
山形大学

本学学生が南極観測隊に参加します

本学大学院理工学研究科（理学系）博士前期課程1年の荒井美穂（あらいみほ、女性）さんを、第57次日本南極地域観測隊同行者として、本年12月2日から平成28年3月27日まで、南極大陸に派遣します。

◆経緯

荒井さんは、本学大学院理工学研究科地球環境学専攻鈴木研究室に所属し、南極大陸で採取した氷コア*の金属成分分析から過去72万年にわたる気候・環境変動とエアロゾル**との関連性について研究を進めてきました。

荒井さんの研究に対する姿勢は真摯であり、極地観測に対する関心も高いため、極域雪氷学分野の次世代形成および本学学生の職業観育成・国際活動支援の観点から、南極観測隊同行者として推薦し、各種訓練・研究打合せを重ねてきたところ、先に開催された南極本部総会***において第57次日本南極地域観測隊同行者に正式決定いたしました。

◆派遣概要

荒井さんは、南極観測隊の中でも特に過酷な環境下で観測を行う内陸氷床掘削チーム（国立極地研究所・川村賢二准教授、他荒井含む4名）に所属します。同チームは、海上自衛隊砕氷艦「しらせ」で南極地域に到達した後、雪上車で南極大陸内陸部に移動、約1ヶ月の間、内陸氷床上で氷コア掘削をはじめとする各種雪氷・気象観測を実施します。得られた試料とデータを用い、過去2,000年の地球気候・環境変動の高精度・高分解能復元を行います。得られる成果は、将来の地球環境予測に必要なデータとなるだけでなく、山形など雪国における雪氷資源の有効利用や持続性評価にも有益な情報を提供することが期待されます。

気温はマイナス20度を下回り、強風が吹きすさぶ過酷な環境での暮らしと作業ですが、荒井さんには雪国山形での暮らしと山形大学で学んだ成果を活かし、ナショナルチームの最年少女性メンバーとしての誇りを胸に活躍してくれることを期待しています。

*氷コア：氷床を掘削して得る氷の柱状試料。過去の降雪・大気を連続的に保存しています

**エアロゾル：大気浮遊塵、砂漠の砂や火山灰など大気中の微粒子

***南極本部総会：第147回南極地域観測統合推進本部（本部長：文部科学大臣）総会。詳細は文部科学省南極観測事業のサイト（http://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/nankyoku/）を御覧ください

（お問合せ先）

山形大学学術研究院 教授 鈴木利孝
電話 023-628-4643

山形から

多文化交流コンサート

世界へ

2015.12.12(土)

OPEN13:00 START13:30

場所：山形市遊学館

入場料

前売 ¥500 当日 ¥800

(高校生以下無料)

[Program]

モンゴル
タイ
ベトナム
インドネシア
ロシア
台湾
ラトビア
オランダ
イギリス
ホンジュラス
ネパール
アフリカ
中国

世界各国の留学生による
伝統楽器、ダンス、歌など

お問い合わせ

尤 銘煌 (ユウ・ミンコファコ) 080-6057-3819 / Richard chin 080-5559-1633 / freddyyu@kdw.kj.yamagata-u.ac.jp

※参加者の事情により、当日のスケジュールが変更になる場合もございます。

主催：国際ロータリー第 2800 地区山形米山学友会

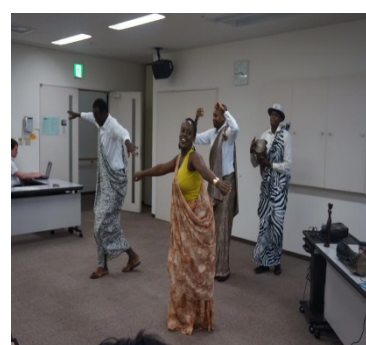
共催：国際ロータリー第 2800 地区、山形大学小白川キャンパス国際センター、山形大学 国際交流サークル IF
当事業は、公益財団法人 山形県国際交流協会より助成されたものです。

「山形から世界へー多文化交流コンサート」プログラム

1. モンゴル：馬頭琴、歌 2. タイ：民族舞踊 3. オランダ、ドイツなど：ピアノ演奏



4. ポーランドなど：南京玉すだれ 5. ベトナム：民謡 6. アフリカ・ルワンダ：民族踊り



7. ニュージーランドマオリ族：民族踊り 8. ロシア：民族舞踊・楽器 9. 台湾：歌



他：ネパール：歌、中国：歌、日本：現代ダンス、インドネシア：民族舞踊など

日時：2015.12.12(土)13:00 open 13:30pm~start 場所：山形市遊学館

入場料：前売 500 円・当日 800 円 (高校生以下無料)

主催：国際ロータリー第 2800 地区山形米山学友会

共催：国際ロータリー第 2800 地区、山形大学小白川キャンパス国際センター

山形大学国際交流サークル IF

(当事業は、公益財団法人山形県国際交流協会により助成されたものです。)

お問い合わせ：尤 銘煌 (ユウ ミンホアン)

TEL:080-6057-3819 E-mail:freddyu@kdw.kj.yamagata-u.ac.jp

活躍する山形大学卒業生

私にとっての山形大学とは？

社会で活躍する若手卒業生4人の
これまでの経験を通じて、
後輩学生の皆さんに学生生活や就職活動の
“ヒント”を熱く語りかけます。
学生の皆さんもぜひ参加して先輩卒業生の
メッセージを受け止めてください。

2015年 **12月5日** 土

10:30 ~ 12:30

山形大学基盤教育1号館
111教室(1階)

参加者 山形大学在學生、卒業生、教職員等

参加費 無料 ※米沢、鶴岡キャンパスから参加される場合の交通費は校友会が負担します。

お申込期限 11月30日(月)

募集人数 50名

※終了後にはシンポジストを囲んで、軽食をとりながらの懇談会を行います。(参加費無料です)

シンポジスト

田中 文香 氏【教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース小学校教育系 平成19年卒】
・青年海外協力隊員(小学校教員)としてエクアドルに赴任
・千葉県四街道市立南小学校勤務

鈴木 集 氏【大学院地域教育文化研究科文化創造専攻 平成23年修了】
・音楽講師(山形市立商業高等学校、県立寒河江高等学校) 他

モハマドナジュワビン アブ ハッサン 氏(マレーシア)【工学部物質化学工学科 平成25年卒】
・八洲電機株式会社勤務

菊地 将晃 氏【農学部生物環境学科地域環境科学講座 平成22年卒】
・株式会社ふらっと勤務

座長 齋藤 学 氏【山形大学准教授学術研究院(地域教育文化学部担当)
:教育学部中学校教員養成課程 平成4年卒】

申込先 (在學生) 各学部学生担当窓口(1年次の場合は小白川キャンパス基盤教育担当窓口)
山形大学校友会事務局(小白川キャンパス インフォメーションセンター内)

申込先 (在學生以外)

〒990-8560 山形市小白川町 1-4-12 山形大学校友会事務局
TEL: 023-628-4867 FAX: 023-828-4185
e-mail: ykouyu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

〒990-0021 山形市小白川町 1-23-27 地域教育文化学部同窓会
TEL&FAX: 023-633-0567

平成27年度 山形大学校友会支援事業「山形大学卒業生講演会」

シンポジウム『活躍する山形大学卒業生～私にとっての山形大学とは?～』

◆上記シンポジウムに参加を希望される方は本申込書にご記入の上、**FAX** を送信するか、**電話** 又は **E-mail** のいずれかでお願います。

申込締め切り：平成27年11月30日(月)

参加申込書【FAX用】

ご住所			
お名前	ふりがな		
お電話			
卒業生の方	学部	昭和・平成	年卒業

※お申し込みの際に頂いた個人情報は本会のみにご利用させていただき、それ以外の目的での利用は致しません。

FAX送信先

山形大学校友会事務局 **FAX 023-628-4185**

地域教育文化学部同窓会 **FAX 023-633-0567**

電話番号

山形大学校友会事務局 **TEL 023-628-4867**

地域教育文化学部同窓会 **TEL 023-633-0567**

E-mail

山形大学校友会事務局 ykouyu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

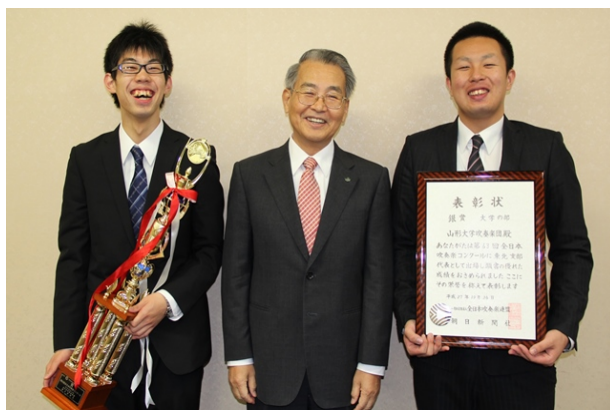
平成27年11月17日
山形大学

山形大学吹奏楽団が全国大会で銀賞を受賞

10月24日に札幌市内で行われた第63回全日本吹奏楽コンクールに9年ぶりに出場した山形大学吹奏楽団が11月6日、小山学長に通算2度目の銀賞受賞を報告しました。

報告を行ったのは、団長の高橋拓也さん（理学部3年）と指揮者の東海林達郎さん（地域教育文化学部3年）。高橋さんは「OBの方など多くのサポートでびっくりする成績をおさめることができました」と感謝の言葉を述べ、東海林さんは「自由曲の「サスパリラ（マッキー作）」はロック調の冒険的な曲で、これに決めるのには大変苦勞したのですが、本番では最高の演奏ができました」と報告しました。小山学長からは、祝辞のあと「これからも後輩のみなさんに指導していただき、来年はぜひ金賞を受賞してください」とメッセージが送られました。

なお、全国大会で演奏した課題曲と自由曲は12月6日に山形市民会館で開演される第35回定期演奏会で演奏される予定です。



（お問合せ先）

山形大学総務部総務課広報室 樋口

電話：023-628-4008

MAIL：koho@jm.kj.yamagata-u.ac.jp